

活動報告

2022年度全学教育センター FD 活動報告

日本福祉大学全学教育センター

Report on Faculty Development Activities by Nihon Fukushi University
Inter-departmental Education Center in the Academic Year 2022

Inter-departmental Education Center, Nihon Fukushi University

1. 2022年度全学FD概要

全学FD活動は、全学的な教育開発課題に関する知識や情報の共有を主として、本学教職員の教育・業務遂行スタンダードの形成に資することを目的として実施してきた。2007年度に「きょうゆうサロン」と「バスツアー」を実施したことを皮切りに、その時々々の時流に即した課題に焦点を当て、その取り組みを拡大してきている。

2022年度は、「教育方法及び教育改善」に係る取り組みとして、配慮の必要な学生への対応と課題の活用につ

いて情報共有するFD、「高大接続改革」に係る取り組みとして、英語教育についてのFD、「地域連携教育の推進」に係る取り組みとして、学生の意欲を育てる地域連携の取り組みについてのFD/SD、「学修の管理・支援、卒業時の質保証」に係る取り組みとして、シンキングツールによる質保証についてのFD/SDを開催するとともに、新任教員を対象とするFD/SDを2022年4月から2023年2月にわたって実施した。各FD/SDの日程とテーマ、参加者数を表1に示す。

表1 2022年度全学FD実施概要

①全学FD		
開催時期	開催テーマ	参加人数
	講師・話題提供者	
「教育方法及び教育改善」		
2022年7月29日	スポーツ科目運営に資する情報の共有 －配慮の必要な学生への対応と課題の活用－	13名
	全学教育センター 高村秀史 助教	
2023年3月24日	配慮が必要な学生への対応	17名
	全学教育センター 高村秀史 助教 スポーツ科学部 大宮とも子 准教授	
「高大接続改革（英語教育）」		
2022年11月28日	音声認識システムを活用した音読とスピーキングタスク －インプットからアウトプットまで－	12名
	全学教育センター 石田知美 講師	

「地域連携教育の推進」		
2023年1月19日	学生の意欲を育てる地域連携の取り組み ～岐阜県をフィールドにした事例から～	22名
	全学教育センター 佐藤大介 助教 地域連携コーディネータ 星野宏氏	
「学修の管理・支援, 卒業時の質保証」		
2023年2月21日	シンキングツールによる質保証	22名
	全学教育センター 村川弘城 講師 関西大学 総合情報学部 黒上晴夫 教授	
②新任教員 FD・SD		
開催時期	開催テーマ	
2022年 4月4日(第1～4講)	<新任教員オリエンテーション> キャンパス紹介, 教務オリエンテーション等	
4月28日(第5・6講)	<入試部事項>	学生募集・入試制度, 入試スケジュール, 推薦系入試・面接にあたって
	<学生部事項>	学生状況, 配慮を必要とする学生の理解・対応
5月26日(第7講①)	<理事長懇談>	理事長懇談
6月6日(第7講②)	<大学創設者と建学の精神>	学園長講話
6月16日(第8講)	<教務部事項>	教務事項, 本学の教務試験の仕組み, 障害学生の試験配慮
6月30日(第9・10講)	<就職部事項>	就職状況, キャリア支援
	<総合研究機構事項>	研究関連状況, 研究支援
8月4日(第11講)	<前期リフレクション>	赴任前期の振り返り
9月29日(第12講)	<大学の管理運営>	大学の意思決定の仕組み
10月20日(第13講)	<防災学習>	各キャンパスの「安全の日」企画への参加
10月27日(第14講)	<教務部事項>	大学における「3つのポリシー」 シラバスの作成にあたっての留意事項
2023年 1月27日(第15講)	<学長企画>	犀川スキーバス事故追悼集会への参加
2月8日(第16講)	<リフレクション>	赴任初年度の振り返り

1-1. 全学FD

全学教育センターが主催するFDについては、冒頭にも触れられている、日本福祉大学の教員としてのスタンダードといえる知識や本学の教育・業務の遂行における全学的な教育開発課題について理解・共有することを主目的とし、2022年度も継続して教育方法及び教育改善に資する取り組みを行った。

1) 教育方法及び教育改善

全学教育センターが所管・移管される科目における、教育手法や授業改善の共有を目的として、2022年度も「英語科目」・「スポーツ科目」の双方で継続的にFDを実施した。「英語科目」では、年に3回実施する担当者会議内において、学生の学びの状況や出欠席を各科目担

当教員から報告してもらい、全学教育センター教員、および学部教務委員とともに、現在の学生状況や教育手法について情報交換を行った。

また、「スポーツ科目」では教育手法におけるより実践的な学びを重視し、スポーツ科目担当教員及び担当事務職員を対象にFDを実施した。7月のFDについて、当初は「配慮願いが提出されている学生以外で、授業時に配慮が必要な学生が増えている」という報告から学生対応を中心に進める予定であったが、2022年度より授業を担当された先生方より、「他の教員は、30時間をどのような配分で進めているのか」「ふりかえりや事前・事後学習をどのように課しているのか」という質問があったため、「配慮が必要な学生に対する対応」「30時間の授業運営・時間配分」「授業の課題について」の

3点をテーマにFDを進行した。「配慮が必要な学生に対する対応」については事例共有がなされ、3月のFDにおいてさらに議論を深めることとなった。「30コマの授業運営・時間配分」については、本学の「通年1科目30コマ」という授業において、座学など実技以外の内容をどのように行い、配分しているかについての共有がなされた。「授業の課題について」では、スポーツの上達に有効とされるふりかえりや、事前・事後学習での課題をどのような方法で行っているかなどの共有が行われ、今後の授業運営に大いに資するFDとなった。3月は本学のスポーツ科目を担当した経歴をもつ、スポーツ科学部の大宮とも子准教授を話題提供者に迎え、「授業に配慮の必要がある学生への対応」をテーマに意見交換を行い、スポーツ科目の改善・向上を図った。2022年度開講当初から「コミュニケーションがうまく取れない学生がいる」「発達障害が疑われる学生が存在し、授業運営に影響がでている」という報告が複数の科目担当教員から挙げられていたため、「具体的な配慮の方法」「配慮が必要な学生の特性」などを科目担当教員や関係者間で共有し、授業や授業に伴う指導に活かすことを目的として、特別支援学校での経験から障害を持った学生の特徴や支援・配慮の方法などを実際の事例を交えながら話題提供が行われた。参加者に対するアンケートでは、同様のテーマでさらに踏み込んだ内容を求めるポジティブな感想が多く見られ、非常に有意義なFDとなった。

2) 高大接続改革（英語教育）

初年次英語教育における現状と課題の共有、学生の英語力の変化やそれに対応した教育内容を考えることを目的として、英語科目担当教員及び担当事務職員を対象にFDを実施した。FDでは、「音声認識システムを活用した音読とスピーキングタスク-インプットからアウトプットまで-」をテーマとして実践報告を行った。具体的には、本学学生が大学英語教育に求めている「スピーキング力とリスニング力の向上」を目的とし、動画コンテンツをオンライン上で使用できる教材を活用し、音声認識システムを取り入れスピーキング練習を行う教育手法について実践報告がなされた。11月の英語担当者会議はFDを対面で行ったが、当日に参加できない教員も視聴できるようにZoomで録画し、後日配信した。本取り組みでは、1.5万以上の英語動画を自由に視聴し、動画の台詞を音読練習することで、各学生の音声データを

オンライン上に保存し、点数化することで弱点を指摘してくれるシステムを使用した。授業当初の4月における学生による台詞の音声データと12月の音声データを比較し、英文を棒読みし流暢さも欠けていた状況から、流暢さや発音も格段に向上したことが確認された。また、自律的な学習を促すために、各学生が自分の薦める動画を紹介するプレゼンテーションを行い、英語プレゼンテーションスキルを伸ばす取り組みも報告された。多くの教員が興味を持ち好意的なコメントが多く、本FDは一定の成果を上げたと判断する。

3) 地域連携教育の推進

本学で展開される地域連携教育の効果的な推進を図るための手法、留意事項や実践事例を紹介して実践の促進を図るとともに、地域と連携した学修のあり方を参加者と考えていく機会として、全教職員を対象にFDを実施した。FDでは、「学生の意欲を育てる地域連携の取り組み～岐阜県をフィールドにした事例から～」をテーマとして、地域コーディネータの星野宏氏より報告がなされた。近年大学教育において、地域連携教育の手法やあり方を検討することが重要な課題となっている。そこで、本FDでは岐阜県をフィールドにした事例報告から地域連携教育のあり方の一つを学ぶことを目的とした。星野氏からは「実施プログラム」「その他の取り組み」「学生の声」「取り組みの課題」「効果」のポイントを踏まえ報告がなされ、参加者同士のディスカッションが行われた。参加者からは「参加した学生が生き生きとしている姿を想像しました。最後に星野先生が語られた、『参加後の姿がわかると関心をもつ』ということはとても納得しました。授業をするうえでとても役立つと思いました。」などの声が寄せられた。引き続き、地域連携教育推進FDでは、地域レベルで実践されている教職員の優良事例を本学で広く展開できるよう、全学教育センターでも支援・協力をすすめたいと考えている。

4) 学修の管理・支援、卒業時の質保証

学修の質を高めるための取り組みについて理解を深めるため、全教職員を対象にFDを実施した。FDでは、「シンキングツールによる質保証」をテーマとして、関西大学の黒上晴夫氏より話題提供が行われた。オンラインやハイブリッドなどが注目されている中で、「考える授業」をどのように実現させれば良いのか、シンキング

ツールを使うことのメリットや使う上での注意点、オンライン講義などで使う方法や実践を実際のプログラムツール、機器を用いて紹介したほか、学生や授業への評価について検討がなされた。参加者へのアンケートにおいては、役に立ったかという質問に対して、72.7%がとても役に立った、18.2%が役に立ったと回答しており、約90%が役に立ったと回答している。受講の様子からも有効的なFDになったといえる。

1-2. 新任教員FD・SD

新任教員FD・SDは、本学に新たに赴任した専任教員を対象とした学習プログラムである。日本福祉大学スタンダードに関わるGP事業の一環で2009年度より開始し、現在は副学長の下で実施している。赴任初年度から教育・研修の推進に関するより広範な知識の獲得を図るため、当初は年6回開催だったものを2015年度から全10回、2017年度から全15講、2019年度には全16講へと内容を拡充した。2022年度は新型コロナウイルス感染拡大に配慮しながら、第1～4講、第11講、第16講を対面で実施した。それ以外の講はZoomを用いたオンライン形式で実施し、全16講の構成で実施した(表1参照)。対象者は2022年度の新任教員26名及び2021年度途中赴任の4名であった。

2. 総括

2022年度は昨年度に引き続き、『教育・学習の質保証』を全体テーマとして設定し、全学共通教育推進の更なる高度化のために必要な教育方法、教育内容などに関する学内教員及び学外者を講師として招いての先進的な知見の導入を図った。

新型コロナウイルス感染症に係る規制の緩和等により、昨年度よりも対面や対面とオンラインのハイブリッドでの開催が増加した。

オンラインで実施したFD/SDについては、録画データを当日参加できなかった教職員に動画コンテンツとして配信することで、より多くの教職員にFD/SD活動を共有することができ、オンラインの利点を生かしたフォローアップ体制の構築につなげることができた。

2023年度については、日本福祉大学の教職員としてのスタンダードといえる知識や、本学の教育・業務の遂行における全学的な教育開発課題について理解・共有し、地域連携教育および卒業時の質保証に関連した活動を

を継続するとともに、教育方法及び教育改善に向けたFD/SDの取り組みを企画・実践していく。また、FD/SDのプログラム内容を踏まえながら適切な開催方式についても検討をすすめ、実施していく。